

サービス・ラーニング・ネットワーク主催

第2回「サービス・ラーニング全国フォーラム」のご案内

テーマ：地域と大学の協働の未来を描く

サービス・ラーニング（SL）が大学教育に導入されてから15年以上が経過し、科目開設の段階から、大学全体の改革を伴うものへと、大学教育における位置づけが深化（進化）しています。この間、文部科学省の「地（知）の拠点（COC）」事業もはじまり、大学と地域の協働は新たな展開を見せています。こうした背景から、本フォーラムでは「地域と大学の新たな協働の姿」を探ることで、大学教育の新たな可能性と地域の持続的な発展のあり方を考えていきます。

地域と大学の協働を基盤にした学びを展開するにあたり、プログラムを主として担う学部やセンターのみならず、教務や地域連携の機関等の関わりが必要となります。地域との協働においても、中間支援機関、テーマ型NPOや地縁組織など、多様な主体のニーズにも寄り添った連携によって、大学・地域の両者にとって期待する成果を共有することができるといえます。こうした協働を効果的に進めるには、どのような登場人物がいるのか、その多様なアクターがどのように有機的につながりながら、学びを支えているのかについて詳細に浮き彫りにして参ります。全大会のパネルディスカッションでは、大学の組織改革を図りながら「地域と大学の協働による学習」を発展させている日本の大学、「地域に根差した学び」のコンセプトを世界的に広めているアメリカ・ポートランド州立大学でSLに携わる方々から、その実践、背景となる考え方、プロセスについて事例の報告をもとに、参加者間で議論を深めてまいります。

通常の報告等では表に出てきづらい役割や存在にもフォーカスしていくことで、地域と大学の協働の未来はどのように描いていくのか、参加者一人ひとりがヒントを得て、それぞれの現場で生かしていくことを目指しています。

今回は特別企画（プレ・カンファレンス）として、SL関係者の間でも特に関心の高い「評価」をテーマにしたセッション「評価とリフレクション手法を共有しよう」を企画しています。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日 時：	2017年5月20日（土）13:00～17:40（情報交換会 18:00～20:00）
会 場：	日本福祉大学東海キャンパス（愛知県東海市、名鉄名古屋駅から常滑線で17分） アクセス http://www.n-fukushi.ac.jp/campus/tokai/acsess.html
主催	サービス・ラーニング・ネットワーク
共催	日本福祉大学サービスラーニングセンター
申込方法：	以下のURLの申し込みフォームからのお申込みください。 https://goo.gl/forms/YRLOtTL5uYEXJJZY2
参加費：	3,000円
情報交換会費：	3,000円、キャンパス内の学食にて（希望者のみ） ※ 参加費、情報交換会費（希望者のみ）は、当日受付でお納めください。 ※ 情報交換会の当日キャンセルは固くお断り申し上げます。
定 員：	60名（定員となり次第、締め切らせていただきます）
申込締切：	2017年5月14日（日）

第2回 サービス・ラーニング全国フォーラム プログラム

12:40	受付開始 日本福祉大学東海キャンパス 中央部3階S301教室
13:00-13:10	開会 挨拶：村上 むつ子（サービス・ラーニング・ネットワーク代表） 原田 正樹（日本福祉大学学長補佐） 司会：黒沼 敦子（サービス・ラーニング・ネットワーク副代表、 国際基督教大学サービス・ラーニング・センター講師）
13:10-15:10	全体シンポジウム 『地域と大学の協働の未来を描く』 パネリスト 村上 徹也（日本福祉大学全学教育センター 教授） 上田 健作（高知大学地域協働学部学部長） 向野 也代（アメリカ・ポートランド州立大学「ユニバシティ・スタディーズ」キャ ブストーンプログラム非常勤准教授、パブリックサービス実践・研究セン ター「CBL-Japan プログラム」Co-manager） モデレーター ：市川享子（サービス・ラーニング・ネットワーク副代表、 東海大学健康科学部社会福祉学科講師）
15:10-15:20	休憩
15:20-17:20	分科会 分科会の詳細は次ページをご覧ください。 第1分科会 日本福祉大学における「トライアングル・リフレクション」 第2分科会 大学と地域をつなぐ”コーディネーター”とは？ 第3分科会 「成長を評価する」をデザインする
17:20-17:25	移動
17:25-17:40	閉会

※情報交換会は日本福祉大学東海キャンパス内にて18:00～20:00で行ないます。

【特別企画】 プレ・カンファレンス 10:30～12:00

ラウンドテーブル「評価とリフレクション手法を共有しよう」

※詳細はこの要項の最後のページをご覧ください。

分科会の内容

第1分科会	<p>日本福祉大学における「トライアングル・リフレクション」</p> <p>2009年に社会福祉学部における2年次教育からはじまったSLの取り組みは、文科省COC事業を契機に、全学的に展開されるようになりました。</p> <p>日本福祉大学では、活動先・学生・大学の3者による相互的なリフレクションを大切に「トライアングル・リフレクション」と位置づけてきました。</p> <p>本分科会では、3者からの発題を踏まえて、この構造と過程、到達点や課題、日本における地域連携教育の展望について、参加者ともに深めます。</p> <p>【発題】 活動先：山崎 紀恵子（NPO法人「絆」理事長） 岡本 一美（NPO法人「地域福祉サポートちた」理事長） 学生 ：サービス・ラーニングを経験した学生 大学 ：佐藤 大介（日本福祉大学全学教育センター） 【コーディネーター】 原田 正樹（日本福祉大学社会福祉学部）</p>
第2分科会	<p>大学と地域をつなぐ” コーディネーター” とは？</p> <p>大学や地域団体で大学と地域をつないでいる人とは、どのような人たちでしょうか。本分科会では、大学と地域の協働を促進し、各地で多様な取り組みを行っている” コーディネーター” の実相について取り上げ議論します。</p> <p>米国のアカデミック・プロフェSSIONALという職域の視点も交えて、参加者の皆様と今後の展望を踏まえた議論とキャパシティ・ビルディング（能力構築）を行う時間を創り出したいと思います。</p> <p>【ファシリテーター】 黒沼 敦子（国際基督教大学サービス・ラーニング・センター） 石筒 覚 （高知大学 地域協働学部）</p>
第3分科会	<p>「成長を評価する」をデザインする</p> <p>地域や社会などの現場で学ぶ実践は、大学教育改革（とりわけ、GP事業やCOC事業）のなかで豊富化してきています。他方で、学生の学びと成長を可視化し評価することの難しさがあり、多くの現場で依然として葛藤と模索が続いていると言えます。</p> <p>本分科会では、SL国内と海外のフィールドでの実践報告皮切りにして、参加者の実践も取り入れながら、「明日から使える評価ツール」の開発を（大胆にも）試みるワークショップを展開していきます。</p> <p>【司会】 山田 一隆（岡山大学地域総合研究センター） 【発題・事例発表】 秋元 みどり（立教女学院短期大学現代コミュニケーション学科） 秋吉 恵（立命館大学共通教育推進機構） 市川 享子（東海大学健康科学部） 日本福祉大学IR推進室</p>

特別企画「評価とリフレクション手法を共有しよう」

日時 5月20日（土）10:30～12:00

会場 日本福祉大学東海キャンパスS304教室

内容 大学の授業で、課外活動で、地域のボランティアセンター、NPOで、ボランティア教育やサービス・ラーニングに取り組む際、活用しているリフレクション手法や評価手法を、持ち寄り、課題や成果を共有しながら、よりよい手法の開発に向けた意見交換を行いませんか？

災害の復興支援、中山間地、福祉施設、国際協力…様々なフィールドで大学生のボランティア活動を支援しながら、その成果をどう評価したらいいのか、どんな尺度で測ったらいいのか。現場で学生たちの変化を見ながら、それをわかりやすい形で提示したいと日々努力している皆さまが集まって、共有しあう機会を設けました。

それぞれの実践者がどのような視点を大切に評価やリフレクションに取り組み、試行錯誤しているか、参加者同士の情報交換とディスカッションをおこないます。

プログラム

- 1.趣旨説明
- 2.ラウンドテーブル：参加者が実施する評価に向けたリフレクション手法の共有
- 3.全体共有

備考 このラウンドテーブルの参加だけでも、分科会「評価」の参加だけでも、歓迎いたします。